



広報 ひこね

2002
7/15

大学むら「サントウン竹ヶ鼻」(学生向けアパート)から北を望む(竹ヶ鼻町)



米谷さん(「大学むら」中庭で)

表紙では、「住みたい 住み続けたいまち」彦根の表情を写真で紹介しています。写真をお持ちでない場合は、[☎情報政策課広報係](#)で撮影します。☎22-1411(内線431)へ気軽に連絡してください。

今年から、大学むらに30人余りの海外からの留学生もやってきました。ほんの数年前とは見違えるような風景に、時代の流れを感じます。

現在の竹ヶ鼻近辺は、おそらく市内でも最も都市化の激しい所の一つではないでしょうか。農と住の調和したまちづくりを目指し、彦根市やJAなどの支援を受け、平成7年に「彦根市竹ヶ鼻農住組合」が組織されました。その翌年から約120区画の住宅地と200人の大学生が入居できる「大学むら」などが次々と建設され、活気あふれる新しいまちが、みるみるうちにできました。

竹ヶ鼻町にある「竹ヶ鼻廃寺遺跡」は、白鳳時代に豪族の寺院があった所で、付近の小字名にも、「寺街道」「薬師堂」「石仏」など、関係のありそうなものが多くあります。

米谷寿一さん(竹ヶ鼻町)

表紙のことば